

つばき みなと  
**椿木 湊**

異能力組織『シナプス』に所属。  
組織では最年少のエージェント。  
両手に強力な発火能力を持ち、  
手をかざした方向に爆炎を放つ。  
類い稀な才能を持つが、  
その才能に胡坐をかく高慢な自信家。  
敵はもちろん、組織の仲間すら見下し、  
自分以外を認めようとししない。

両手に能力を有するので、  
両手を封じられると何もできない。  
また、エージェントスーツで能力を  
増強しているため、スーツを着ていない  
状態ならば、発火能力は対処できる範囲の  
威力となる。







なぞ なぞ

えひる

あま

へい

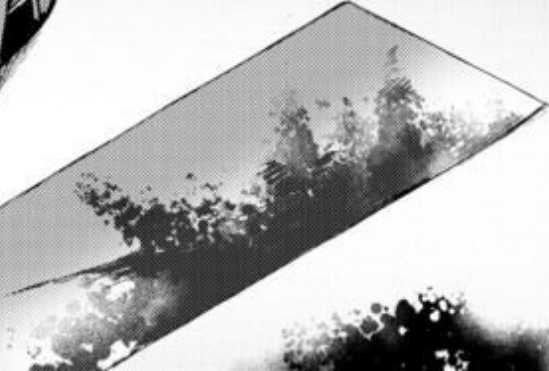
人身売買を行う犯罪組織に捕らわれた湊。薬漬けにされて自由を奪われ、商品としての加工処理を施すため、作業台に乗せられる。

「ほらほら、湊ちゃん、笑って！  
写真はちゃんと笑顔で撮らないと！  
ほらピースも忘れないで、  
もう二度と出来なくなっちゃうんだから！」

カク

ヒク

カク



原本还那么狂妄自大的可恶的臭小鬼经过无力化处理过后还真是变得有些无趣了呢。还好有这个通过某道特殊途径得到的「超能力套装制御装置」。

对于制御超能力已经对紧身衣产生极大依赖性的椿木凌使用制御装置之后产生的效果真是不错呢。

竟然把自己的右臂都给烧掉了，真是不像样子。

在她还在被吓得目瞪口呆的时候赶紧给她注射超能力抑制剂，迅速将她送往试验室。

在椿木凌身上的火被扑灭之后，她身上作为宝贵的超能力样本的右臂也被烧掉了，

研究员们无不惋惜得紧皱眉头。

之后将她的身体固定住，戴上了面罩，右臂在火扑灭后勉强强残留下来一小部分，

为了防止这段右臂出现超能力暴走的情况，上面被注射了大量的抑制剂。

头戴面罩上可以发出特殊的电磁波，可以作用在大脑中令脑波产生变化……

嘎

啊

唔

啊啊

……经过了很长一段长时间之后。

研究者们因为很久没有得到这么大的猎物了，个个都兴奋地跃跃欲试。这个可恶的小鬼烧死了我们许多同伴，我们都对她充满了怨恨。那现在就让我们来看看她究竟还能支撑多久。



ん  
あ

ん  
ん

ん  
ん

あ  
あ

あ

あ

あ

あ  
あ

ド  
ク

ガ  
ク

ガ  
ク

ト  
ム



世  
...  
...

世  
...

世  
...

世  
...

世  
...

世  
...

世  
...

世  
...

世  
...

世  
...

世  
...

SALE  
2,000,000  
117 (可)

BHD-035



「表が消息を絶つてから数週間。  
『教育ビデオ』と称した一本の映像がシナプスへと届いた。」

「シナプスの皆さん見てますか。  
政府お抱えの組織なのにガキの躰がなってませんなあ。  
これから湊ちゃんには教材として協力していただきま〜す。  
ほら湊ちゃん、みんなにご挨拶だよ〜」

「あぎっ♥ がッあ…♥ おっ、オっ…んおおおお♥」  
脳にプラグを挿し込まれ、ビクンビクンと痙攣する湊。  
やがて激しい痙攣はおさまったものの、自我を失ったように  
うめき声とも喘ぎ声ともつかない声を発するだけになった。  
組織の構成員が呆れたように湊の頬を叩くが反応はない。



「あっ…♥ ゲッ…エッ…ゆるひへ…くらはいい…ごめん…なさ…」

「ダメだよ。ちゃんとみんなにご挨拶しないと。  
ご挨拶できないような悪い子は良い子になれるお菓を脳みそに流しましょうね〜」

「やっ♥ それ、やめっ…♥ もうやめてえ♥ ……あっ♥」

「ありあ、やっちまったよ。せっかく見せしめに  
虐めてやろうと思ってたのに…」

「こいつも脳みそ引きずり出して売り捌くか。  
あ、解体室でもビデオ回しておけよ。  
死に際くらい良い反応してくれんだろ〜」



「どうだ、自分の足で発電した電流の味は？」

「おっ♡ おごっ♡ んおおオオ♡」

「これくらいで死ぬんじゃないぞ。これくらいで死ぬんじゃないぞ。全部吸い出してやるからな」

ガッ

ガッ

カッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ



吐かすモンも吐かせたじ  
あとは生体デバイスとして  
使い潰してやるよ。

足りない脳みそ繋げてもらえ  
てよかったなあ。

えへえ

H...

SS  
1/10/25

ク  
ク  
ク



おぉん

おんほん

精神操作系の異能を持つ者は  
鋭敏な精神で異能を扱うため  
洗脳も容易である。  
「んおオオ♥ちんぼっ♥ちんぼお♥もっとお♥」  
「舞子ちゃん廃棄決定だってよ、今さら男に媚び売っても遅えんだよ」

ぶるっ

ゴニョニョ

ゴニョニョ

ゴニョニョ

ゴニョニョ

ゴニョニョ

ゴニョニョ

はっ

はっ

はっ

ぶるっ

ぶるっ

ぶるっ



あまませる相手も

うざいわー

いってばい田舎な

お前さんさーん



たきじま  
**滝島 ヒカリ**

異能力組織『シナプス』に所属。  
もともと孤児であったが、  
シナプスの滝島長官に異能力の才能を見出され、  
養子として迎えられる。  
滝島長官には深い恩義を感じており、  
彼を「パパ」と呼び、愛念を抱いている。  
天真爛漫なお調子者。  
シナプスと敵対している組織の手によって  
両親を失ったため、  
敵対組織の構成員には容赦がない。

瞳から太陽光を身体に取り込み、  
取り込んだ光を増幅し、ビームとして  
瞳や指先から放つ異能力を持つ。  
ビームの威力は絶大だが、  
必ず太陽光を瞳から取り込む必要があり、  
太陽光が瞳に届く場所でしか能力を発揮できない。  
また、能力発動中の瞳は太陽光以外の  
あらゆる光の影響を受けてしまう。



ふたお ふみ  
**二尾 文美**

異能力組織『シナプス』に所属。  
生物の脳に作用し、催眠状態へと陥らせる『魅了』の異能力を持つ。  
対象の性別に関係なく催眠をかけることが可能だが、異性にはより効果を発揮する。催眠をかける異能力には謎が多く、どうやって対象の脳を催眠状態へ陥らせるかははっきりとしていない。  
異能力は異能力者の脳と密接な関係を持つため、相手の脳へ効果を及ぼす催眠能力は他の異能力よりも、異能力者の脳との結びつきが深いのではないかと、研究者たちの間では関心を集めている。

傲慢かつ強欲な性格で、自分以外の人間を道具と捉えている。利用価値の有無で他人を評価し、その異能力を用いて数多の男性を弄んできた。

**S** 利用価値のある男性を『豚』と呼び、自分に跪かせることに悦びを感じるサディスト。

反抗的な豚にはわざと催眠を浅く掛け、じわじわと屈服させていく。

あらゆる生物に異能力を発揮することから、生物兵器を開発している生体研究所への潜入任務を命じられ、敵組織の研究所へ赴く。





生体研究所への潜入任務失敗。これまでに数多の男を誑かしてきた文美を待ち受けていたのは、研究所で開発された交配実験用の豚だった。異能力研究用の装置で豚と脳を繋かれ、催眠能力を強化、快感を極限まで増幅して共有させる。「ズツ♡ズツ♡フゴッ、ンゴッ♡」互いの脳から送る快感を本能で受け止め、貪り食う。



「さんざん男を弄んできた雌にはお似合いの末路だな」  
「大好きな豚さんとひとつになれてよかったねえ、文美ちゃん」

文美と豚の交尾を見ながら組織の構成員たちはその醜態を嘲る。

「フゴッ！ フゴッ！ フギイッ！」  
「フヒッ♡ んひっ♡ ぶっひい♡」

しかし周囲の嘲笑など、心身共に繋がりが、永遠の愛を誓いあった二匹の耳にもはや届くことはない。

生体研究所への潜入任務に失敗し、囚われの身となった文美。研究員たちの熾烈な拷問と実験によって機密情報を脳から吸い出され、最終的には研究所の所長であるデミヒューマンの晩餐の卓にのせられた。生物の脳を好物とする軟体生物のデミヒューマンにとって、常人にはない特別な組織を持つ異能力者の脳は御馳走である。

口元の触手で頭部をがっちりと啜えられ、ゆっくりと味わうように脳を吸われる。同時に秘部を弄ってやることによって、快楽物質が分泌され文美の脳はよりその風味を増し、食物となつて尚、人の心を魅了する。まるで恋人と愛のあるセックスをしているような、とろけてしまいそうな心地が文美の脳内を駆け巡り、食卓に上つた文美の表情は幸福に満ちていた。



しのみや ひめこ  
紫之宮 姫子 (17)

異能力組織「ニューロン」所属。  
良家の令嬢であり、  
組織では異能力者のリーダー的存在。

「刃腕」の異名を持ち、  
大太刀を軽々と振るい犯罪組織を  
武をもって制圧する。  
大太刀は姫子のDNA情報を用いて  
製造されているため、  
認証DNAを持つ姫子にしか  
扱うことができない。

厳格な性格で規律を重んじる。  
冷静に物事に対処するが、  
跋扈する犯罪組織には強い憎しみを抱いており、  
犯罪組織撲滅には並々ならぬ熱意を持つ。  
組織内では、暴走しがちなミーリャを  
諫められる唯一の存在であり、  
ミーリャにとってはあこがれの存在でもある。  
しかし、姫子の押しつけがましい正義感を  
鬱陶しく思う者も少なからず存在し、  
強すぎる正義感が  
不穏を招いているという側面も。

たった一人で犯罪組織の鎮圧任務に  
あたっている最中、突如消息を絶つ。  
この事件こそが、ニューロン崩壊の  
引き金となるのであった。



「弱きを助け強きをくじく。  
異能力者の在るべき姿だ」

「あう……あつ、もお……こ、ころひて……んおおッ  
ころひてくだひゃつ……おッ……」

「反政府組織の鎮圧任務の最中。犯罪組織によって極秘裏に採取されていた姫子の一本の髪の毛からDNA情報をコピー、大太刀のDNA認証機能を誤作動させられたことにより、姫子は途端に無力と化した。組織のアジトへと連れていかれ、奪われた大太刀で鬪るように四肢を切断される。」

あうあう……

ぐわい

あえ……おい

がく

がく

「異能力者は雑に扱ってもそう簡単に死にやあしねえから重宝するぜ。つつつでも、こいつはいい加減締まりも悪くなってきたし、吐くもんも吐かせたしな……そろそろバラして缶にでも詰めて送り返してやるか」

薬と機器によって思考の自由を奪われ、四肢を失った身体は構成員たちの慰みものにされる。心も身体も蹂躪された姫子は、うわ言のように死を懇願し、やがて使い物にならなくなったと判断した構成員によって加工処理ラインへとその身体を乗せられ、その生涯の幕を閉じた。





「しずかにしてなきゃ  
だめですよぉ〜♥」



背面



はっとり  
**服部 ちかげ(12)**

異能力組織「シナプス」所属。  
表の顔はジュニアアイドルで  
他人からもてはやされるのを何よりも好む。  
年齢が一つ下というだけで  
最年少エージェントとしてちやほや  
されている湊を憎らしく思っている。  
コネクションこそが最大の武器だと考えており  
先輩の花凛を「お姉さま」と呼び  
慕っているが、その実は財閥のお嬢様である  
花凛に取り入ろうとしているだけ。  
基本的に誰に対しても猫を被って接し、  
心中では他人を見下している。  
身長140cm。

派手好きな性格とは裏腹に異能力は「静寂」。  
自分の発する一切の音を消すことができ、  
身体能力も高いため、組織では誰よりも潜入任務を  
得意としている。  
湊や花凛、ヒカリなどと比べて役割が地味なため  
ちかげ本人は自分の異能力をあまり気に入っていない。

その潜入適性を活かして  
黒い噂の絶えない大手製薬会社「マニホールド社」の  
本社へと潜り込むが、以降、ちかげからの音信は  
途絶える。

ゴリッ  
チ  
コリッ  
チ

嗷  
嗷

嗷  
嗷  
嗷  
嗷

嗷  
嗷  
嗷

はっ  
はっ

はっ  
はっ

服部 千景(12)  
隶属于突触组织的超能力者。  
把凑当做自己的竞争对手。对于同样站在湊的对立面的花凛十分仰慕。  
……不过，实际上，她跟花凛相处的很好，也只是单纯地为了要巴结身为财阀大小姐的花凛罢了。  
她的能力是可以将自己所发出的声音给完全消除掉的「寂静」。

「啊诶诶……诶诶……这里是那里呢……？嗷嗷嗷……啊啊……」  
在活体研究所大楼的深处。  
有一个被称作「肉壁」的生物存在，它可以将一切生物都作为自己的食粮给吞食掉，  
以使自身的性能以及能力等得到强化和更新。  
为了救出椿木湊，这个个体虽然顺利地潜入到敌人内部了，但是在这个拥有探知一切能力的肉壁面前，她的超能力发挥不了一点作用。  
随后便被触手缠绕给捕获住了，然后就像被嵌入了这肉壁中一样被牢牢拘束了起来，  
之后由无数的触手组成的活体头罩盖在了她的头上，  
将她的头盖骨啃开了，然后许多细小的触手就像是在她的脑中扎根一样，  
侵入到了她的脑子里……

「嗷嗷……吼嗷……要对我……要对我做什么……啊啊……  
我是……我是谁来看……？ 嗯嗷…… 不要……不要啊啊…… 啊啊啊啊啊啊……」

被肉壁捕获到的超能力者，都将会被当做活体兵器的素体来进行人体改造加工，  
之后则会被带到黑市上出售掉。  
被改造后的个体将会一直感受着持续的至高的快感……  
当她完全被幸福感所包围的同时，她作为人类的人生也就宣告终结了。

For adults only  
突触组织袭击作战  
追加报告书



次の出荷個体は……ん？  
「ひっ……ゆるし……ひぐっ♡ひ、ひ♡」  
なんだあコイツ？ まだ意識が残っていやがるのか。  
ガキの個体にしちゃあ珍しいな。  
どれ……感度も悪くねえな。

危うく優良個体を出荷じちまう  
ところだったぜ。  
ラボに連絡して研究材料としての再登録を  
してやらねえとな。  
よかったなガキ。まだまだ働けるぞ。  
「ごめんなさ……あつあつ♡もう……もお♡  
イジメないでっ、実験イヤなお♡」



たきじま  
**滝島 シオリ**

14歳。  
異能力組織『シナプス』に所属。  
ヒカリと同じ孤児院の出身であり、  
ともに養子として滝島長官に迎えらる。  
滝島長官を父としては勿論、  
組織のトップとして尊敬しており、  
滝島長官に少しでも歯向かう者は  
それがたとえ仲間だとしても  
嫌悪と敵意を剥き出しにして接する。

液体に対してサイコキネシスを発揮し、  
目視できる範囲の液体を自在に  
操る異能力を持つ。  
液体を操って、生物の肺に流し込み  
陸上でも容易に溺死させることが可能。  
体格は小柄だが、身体能力は非常に高く  
要人暗殺や敵地潜入を得意とする。

ヒカリとは正反対の冷静な性格だが  
姉妹の仲は良好。  
しかし、滝島長官にべったりなヒカリに  
嫉妬している一面もあり、  
滝島長官に対しての独占欲は強い。

敵対組織に捕らわれたシオリ。  
死を覚悟していたシオリに与えられたのは  
至上の快楽という罰だった。

「オラー！もつとケツ穴締めるよ！」  
「ふへっ♡ふげえッ♡」

あへっ

えへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

んへっ♡

「だらしねえ顔してアクメきめやがって。  
しっかりビデオに収めてテメエの親父のところを送りつけてやるから  
自慢の水芸みせてみるよ」  
「ひやっ♡ひやい♡お潮ふきますっ♡おとうさまっ、見てっ♡みて♡  
おまんこクチュクチュされてシーシーするのっ♡きもちいいっ♡  
んへっ、おとうさまあ♡パパっ♡ばばあ♡  
わらひっ♡おしっこ、ちゃんとできましたあ♡」



「おっ♡ほおオオオっ♡」  
「おっ♡♡んおっ♡……♡」

姉妹揃って敵組織に捕縛されたヒカリとシオリ。  
ヒカリはヘッドギアを付けられて電子ドラッグ漬けにされ、  
シオリは洗脳状態のヒカリと生体接続装置で脳を繋がる。

「ギャハハッ、テメエに潮と小便掛けられて、  
お姉ちゃんまたイッチャってろぞおっ？」  
「アハハ♡姉さん♡♡イッチャダメ♡♡わが私もイッチャ♡♡」

脳を繋がれているせいで、常に互いにイキ続けてしまう。  
終わりの見えない快樂地獄。シオリの心も快樂に蝕まれていく。

「政府直屬だか何だか知らねえが調子乗りやがって。  
テメエのはマゾ豚らしくブヒブヒ鳴いてりやあいんだよ」  
「おっ♡ワゴッ♡♡ぐやじいっ♡♡こんな奴ら…ふひい♡ブヒいっ♡」

さくらぎ

## 桜木 ミーリャ

シナプスと双壁をなす政府直下の異能力組織「ニューロン」に所属する組織内最年少のエージェント。異能力犯罪の取り締まりにおいてはシナプスと競い合う間柄であり、ライバル組織に所属し、同年代である椿木湊を目の敵にしている。身長135cm。

政治家の両親を持ち、非常に裕福な家庭で育ったが、何不自由なく暮らすことに不満を抱き、生まれ持った異能力を活かして異能力犯罪を取り締まる道を選ぶ。一見しっかり者の委員長気質だが、思い通りに物事が運ばないと癪癪を起し、また、自分の有能さを誇示するかのようには振る舞うため、組織の人間のあいだでは少々扱いに困っている。犯罪組織に対しても挑発的な態度をとり、犯罪撲滅という名目で虐殺を行う。たびたび一人で生きることの厳しさを説くが、了見が狭いので説得力がない。異能力者として強い選民思想を持っており自らを選ばれし存在だと思っている。異能力を持たない者への態度はあからさまに悪く身内に対してもそれは変わらない。

圧縮した空気を手のひらや指先から弾丸や砲弾のようにして発射でき、また目視できる範囲の大気圧を自在に操作可能。操作対象が存在しない場合は何もできない。

「異能力者でもない貴方が私に意見するなんて……。自分の立場を理解して頂く必要がありますね。優れた人間と接していいのは、同じく優れた人間だけです」



汚らゆい……



「ぎやはは！ミリーリヤちゃん捕まえた〜♪」

異能力犯罪撲滅を掲げ、街頭で過激なスピーチを繰り返していたミリーリヤ。足手まといになるからと護衛もつけずに行っていたのが災いし、不意を突かれてまんまと敵の手におちてしまった。ミリーリヤの異能力は強力だが、街中でその異能力の発動は市民も巻き添えにしてしまう可能性があるため、異能力犯罪を取り締まる身である以上、無暗に異能力を行使できない。そうこうしている内に異能力抑制剤を注射され、連れ攫われた。

ゲ  
ゲ  
ッ

ん  
ぐ

くら

「こんなお子様パンツ穿いてスピーチしても

ぜーんぜん説得力ないでちゅよ〜」

「そんなに睨まないでよ。

心配しなくても、これからいっばいお喋りさせてあげるからねえ」

構成員たちの嘲笑がアジトに響く。薬と恐怖心で身体は絶え間なく震え、失禁という醜態すら晒している。しかし、反抗的な態度は崩さず、構成員たちを睨み返していた。

強力な異能力を持つ個体は研究材料として貴重な存在である。  
ニユロンの最年少エージェントとして活躍していたミーリヤも  
貴重な優良個体として扱われた。  
ニユロンの情報を吐かせるための拷問ではあるが、  
研究者たちはそれよりも異能力の謎を解明するために嬉々として  
拘束されたミーリヤに群がった。  
力を持った異能力者の脳みそは、研究者にとって神秘の塊なのである。

なぞ  
なぞ

が  
が

拷問用の椅子に拘束されたミーリヤは組上の肉も同然だった。  
これから自分がどうされるか……頭を撫でられながら懇切丁寧に説明される。  
薬に精神を侵されながらもハッキリとした絶望感が脳内を駆け巡った。

甲高いモニター音が頭上から聴こえてくる。  
人間としての終焉を目前に近づいても、反抗的に眉間にしわを寄せて唸るミーリヤ。  
これからはこれまで以上に世のため人のために働いてくれることだろう。

が  
が  
が  
が  
が

が  
が  
が





異能者を生体資源として活用するため  
開発された人工触手は、異能者の持つ  
エネルギーを徹底的に搾り取るように  
デザインされている。

研究用個体として利用価値のない異能者は  
生体資源としてここへ放り込まれる。  
特殊な薬液を体内に直接注入され、やがて  
自我は消え去り、骨の髄まで生体資源として  
作り変えられるのだ。



「……しつこいんですけど」

はあ？



あいきゆきみつ  
**藍木 幸光 (14)**  
身長160cm。  
一人称「僕」。  
なんかおっさんに付き纏われてる。



「おっ♡おっ♡んっほ♡」  
「幸光くん、気持ちいい？ 気持ちいいよね」  
「あっ♡あーっ♡しっ…しっ…こしこダメっ♡もうダメえ♡」  
「ほおら、射精ちやったねえ。ケツマンコ突かれて  
ちんちんシヨシヨされるの、どう？ どう？」  
「ひいっ♡ちんほいじめないで♡んあぁ♡ゆるしてっ♡」

「可愛くてたまらないよお、幸光くん。  
そうだ、このままおじさんのお嫁さんになっちゃおつか」  
「オッ…だめ♡ちんほ♡やっ♡ちんほお…♡」  
「毎日気持ち良くなる？ 金玉も頭の中も空っぽにして  
ビクビク痙攣アクメたくさんキメちやおう」  
「んひっ♡んひっ♡えへあ…♡びゅっびゅっしちやう♡  
もう…何も考えられなく…♡ なっちやう♡」  
「何も考えなくていいんだよお。おじさんのお嫁さんになるうね」  
「あっ♡あっ…♡…♡  
なる♡なるっ♡しゅき♡おじしやま♡だいしゅき♡」

被験体6号。  
異能力研究の発展に大きく貢献した個体。  
特殊な情動特性を持っており、それが災いして  
異能力を暴走させてしまい、多数の死傷者を出してしまう。  
捕獲の際、激しく抵抗したため止めむ無く両脚を切断してしまう。  
テストも兼ねた薬物投与による異能力の抑制に成功。  
ラボへ連行。  
沈静化してきたところで研究員たちによる説得が始まる。

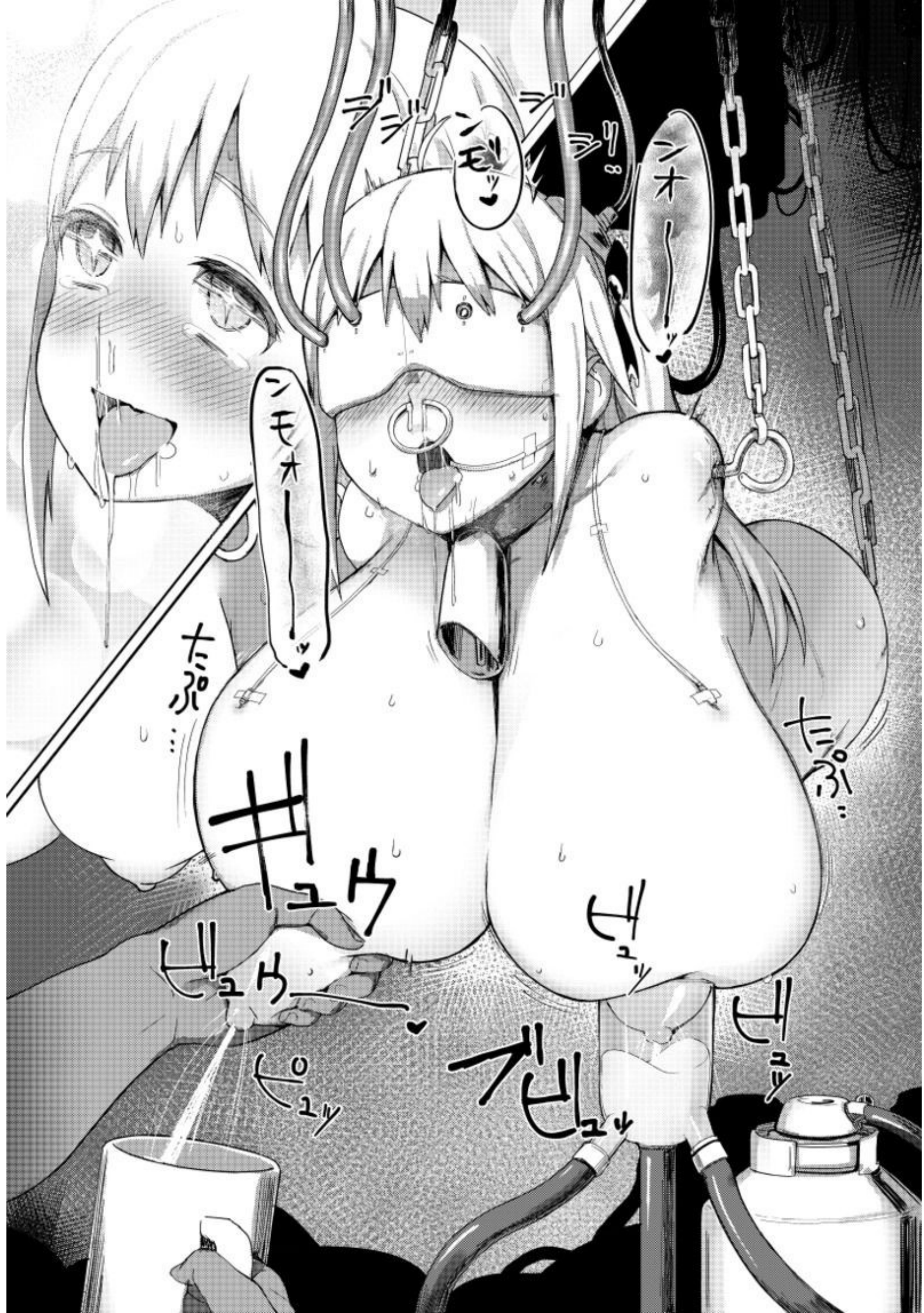
もともとは平和を愛する穏やかな性格だったようで、  
科学の発展は世界平和に繋がるという研究員たちの説得、  
そして何より家族の明るい未来を案じ、  
最終的には快くその身をラボへ提供してくれた。  
研究に対する彼女の献身的な姿勢もあって、  
異能力は脳と密接な関係を持ってしていると判明。  
それまで闇に包まれていた異能力の全貌が解き明かされていった。  
現在でも被験体6号の脳髄はラボのホストコンピュータに接続され、  
異能力研究の発展に貢献し続けている。





捕らえた異能力者の中でも激しく抵抗する個体や頑なに口を割らない個体は、特殊拷問室へと連れていかれる。拷問官は横一列に並べられた異能力者たちから機械的に情報を引き出す。四肢を切断され、頭部を開かれて脳を弄られ、苦痛と同時に強制的な快楽を与えられる。情報を引き出した後は基本的には廃棄処分か食肉加工される。情報処理に適性のある個体は生体デバイスとして加工され、闇市へ出荷される。

「あっ♡あっ♡ごめんなひゃっ♡  
パパあ、ママあ、たすけっ…あっ♡」  
政府直属の異能力組織に所属していたこの個体は、政界に対して大きな発言力を持つ人物の一人娘だった。個体自体も強力な異能力を有しており全能感の赴くままに敵対組織の構成員を虐殺していた。しかし己の力を過信して親元を離れ、浅はかに力を振りかざした結果がこのザマである。



たぶら...

シモキ...

シモキ...

シモキ...

シモキ...

たぶら...

シモキ...

シモキ...

シモキ...









隔離実験室にて、捕らえた異能力者に  
生体デバイスとしての適性があるかどうか  
耐久試験と称した過酷な拷問が行われる  
どうかにか生にしがみ付こうと拷問に耐える  
個体も多いためとも此処に連れてこられた  
個体は初めから適性無しと判断されておられた  
必死に実験や拷問に耐え抜こうとする無様な姿を  
見せしめとして記録に残すのが本当の目的である

「おつ...おつ...」  
「やめ...やめりよ...貴様ら...」  
「こんなことをして...ただですむと...おつ...」  
「ほらほら、しつかり耐えろよ」  
「お友達はもう廃棄処分が決定しちゃったぞオッ」  
必死に耐え抜いているこの個体も、両隣の個体同様  
第17次廃棄処分対象としてリストに載せられて  
いるが、いまだに希望は捨てていないようだ。  
組織の人間からしてみれば絶対の玩具だろう。  
「貴様ら...全員地獄に送って...やっ...んオッ」









ゴリッ  
クチュ  
コリッ  
クチュ

ほあ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

は  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ







ぐい

がく

い

あうまっ

あえっ  
おい

がく

ん

ん

ん

ん

ん

ん









おぉ〜♡

おッ♡  
んほ♡

ぶるっ

んい♡

は♡

は♡

は♡

んい♡

ぶる♡

ブニニ♡

んい♡

ブニニ♡

ブニニ♡

んい♡

ブニニ♡

ブニニ♡

ブニニ♡

ブニニ♡

ブニニ♡

ブニニ♡

んい♡

# 湊の設定 制服とか

ゴ  
バン  
フ  
レ  
マ  
マ  
ー  
♪

ゆー  
ゆー  
あ  
じ  
な  
ま  
さ  
く

学校ではつねに成績トップを維持しているが、それを鼻にかけているため周囲からは疎ましく思われている。教師に対しても偉そうに接するが国家機関のエージェントという肩書きを盾にしているため、学校側は湊の素行に目を瞑っている。同性の取り巻きが多数居るものの、羽振りの良い湊のことを金づるとしてしか見ておらず、人望は皆無。

素行は非常に悪く、年上の男性を誑かして弄ぶのが好き。羽振りが良いのも、誑かした数多の男性から金銭的な援助を受けているため。

南洋に浮かぶメガフロート都市内に学校があるため、制服は気候に適した通気性の良いものとなっている。下着も学校指定のもの。

過去、女子生徒が異能力を暴発させ、学校内で多数の死者を出した事件があり、以来、異能力を持つ学生には原則として学校内では異能力抑制ブレスレットの装着が義務付けられている。

